

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
助産学実践領域	S107-109	1年	前期	助産学専攻科	必修	助産診断・技術学Ⅰ-Ⅲ	120	4	
						Midwifery Clinical SkillsⅠ-Ⅲ			
担当教員									
今村 朋子		井上 明子		瀧本 千紗					
関連するDPキーワード									
○	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。								
○	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。								
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。								
○	④ マタニティサイクルにある対象の個性性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる								
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。								
○	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。								
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。								
授業目的									
助産師として、マタニティサイクルにある母子および家族に対する診断と援助を自立しておこなうための基本的な知識・技術・態度を修得する。									
到達目標（授業目標）									
助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲはマタニティサイクルの各期に相当する連続性のある科目として開講されており、各科目に共通する授業目標を下記のように設定する。									
1. マタニティサイクルの助産実践に必要な知識と技術が修得できる。									
1) 妊産褥婦・新生児の助産診断を行うための知識・技術が修得できる。									
2) 助産診断に基づいた援助を行うための知識・技術が修得できる。									
2. 正常経過をたどる事例に対する助産過程が展開できる。									
1) 妊娠期～産褥期を一連の過程として捉えた助産診断や助産計画の立案ができる。									
2) 対象をウェルネスの視点から捉え、正常性の維持・増進を目指した援助計画が立案できる。									
3) ロールプレイを用いた実践演習において、模擬事例の診断や援助が実践できる。									
3. 対象の主体性を尊重し、継続的に寄り添う助産師としての基本姿勢が修得できる。									
授業計画（項目・内容と方法・担当者）									
授業概要	助産診断・技術学Ⅰ： 1 単位 30時間 妊娠期の助産診断・技術学								
	助産診断・技術学Ⅱ： 2 単位 60時間 分娩期の助産診断・技術学								
	助産診断・技術学Ⅲ： 1 単位 30時間 産褥・新生児期の助産診断・技術学								
	<授業方法>								
	・授業構成は、妊娠期から産褥期までの模擬事例の一連の流れに寄り添う形ですすめていく。								
	・授業は、基本的な知識・技術を学ぶ【講義】と【技術演習】から始まり、そこで学習した内容を基盤として、【実践演習】で模擬事例を用いたロールプレイを展開していく。できるだけ実践場面に近い形で授業をすすめていくことで、知識・技術・態度の統合を目指す。								
成績評価方法及び基準									
評価方法の詳細は、各科目のシラバスで示す。									

教科書	①堀内成子「助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ」（医学書院）									
	②我部山キヨ子「助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期」（医学書院）									
	③我部山キヨ子「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩・産褥期」（医学書院）									
	④横尾京子「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期」（医学書院）									
	⑤我部山キヨ子「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」（医学書院）									
	⑥町浦美智子「助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア」（日本看護協会出版）									
	⑦江藤宏美「助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」（日本看護協会出版）									
	⑧井上裕美「病気がみえる vol.10産科」（メディックメディア）									
	⑨日本助産診断・実践研究会「マタニティ診断ガイドブック」（医学書院）									
	⑩平澤美恵子・村上睦子「写真でわかる助産技術 アドバンス」（インターメディカ）									
参考図書等	⑪日本産科婦人科学会編集「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023★2020→2023に更新される予定」（日本産科婦人科学会）									
	②③④⑥⑦については、冊子とeテキストの両方を使用。 ⑧については冊子でもアプリ版のeテキストでもよい。									
・我部山キヨ子「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」（医学書院）										
・北川眞理子ほか「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践課程」（南江堂）										
【購入教材】 母子健康手帳見本（母子保健事業団） その他、オリエンテーションで提示										
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
【授業開始までの学習課題】 ＊詳細については、別途説明予定										
・妊娠期、産褥期の標準保健指導案を作成する。（授業の事例展開の中で活用する）										
・基礎看護技術、母性看護技術については、確実に実施できるよう各自で練習しておくこと。										
関連科目										
前科目	S101	助産学概論	S103	周産期医学	S104	新生児・乳幼児学	S112	統合ヘルスケア		
後科目	S114	子育て支援論	S110	助産診断・技術特論	S111	周産期ハイリスクケ		助産学実習Ⅰ～Ⅳ		
実務家教員										
備考	本科目は実習とつながっており、授業で作成した保健指導案や事例展開記録は、全て助産学実習で活用できます。自分で考えて実践する形式で進めますので、積極的に参加してください。									